

夕刊

禪を語る(八)

清泉先生

本來平等解脱自由である。『私が勿體ない、あなたへは有相差別の妄見よを導くの何のといふことあり自ら因縁で凡夫となる。苦みもが迷ひの衆生だ。丁度障子に投する蜂のやうなものだと歎息しながらある。』

先刻から師僧は神賛の語

がよくは解し得ぬがらも

氣味悪いことをいふ奴ら

と思つてゐるのであるが、

善知識に就いてそんなに終

り苦みもが迷ひの衆生だ。

丁度障子に投する蜂のやうな

ものだと歎息しながらある。

苦みもが迷ひの衆生だ。

丁度障子に投する蜂のやうな

ものだと歎息しながらある。

がよくなれば、必ず其の如き志があるならば、私が参考しておられる。

大蓋地なることを得べくして自家の珍となし得べきである。

精ならざる佛をして繕の靈機は直ちに自己の靈機

ならしめ、自己の光明、蓋となり、無盡の寶藏は探つ

かのニュートン、ワット、コロンバス等の如い宇宙

(終)

新年文藝募集

時局に因めるもの制限なし

新刊紹介

とふ地よく承諾をして呉

人手を執つて、百才禪師ひ

宇宙は一大寶庫である。

自然は佛陀の慈悲智慧光明

宇宙に投じて、専心に工夫參

△國民法律問題十二月號

桂昌院は將軍家の御對面

離解の法律問題を滋味暢

桂昌院は將軍家の御對面

